

# “ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

施策(中柱)	「文・武・芸」三道の鼎立を目指した学校づくり
--------	------------------------

## 1 基本情報

実施日/班名	9月8日 第3班	時間	16:05～16:40
--------	----------	----	-------------

## 2 レビューの結果 今後の方向性

結果	事業名	重点化	縮小
	心の教育推進事業費	8	4
	スクールカウンセラー活用事業費	9	3
	確かな学力」育成推進事業費(教科等指導リーダー育成事業)	3	18
	私立学校農業体験(アグリチャレンジ)事業費助成	0	23

## 3 県民評価者の意見

### (1)見直し・改善策

- ・心の教育推進事業費、スクールカウンセラー活用事業費は、現在の子どもたちの状況等を考えると、二つの事業を統合して重点的に実施すべき。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、教員の質の向上のため更に充実して実施。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、教育委員会との連携か、農政担当部局主体で実施検討。
- ・レビューシートにも記載したように、命の重さ、尊さを子どもたちに教える事業を検討、上記事業と統合した最重点事業に！
- ・心の教育推進事業費は現時点では重点であるが、内容を検討すべき。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、事業内容を農業に限らず幅を広げるべき。
- ・確かな学力は現場の意見を聞いて再検討してほしい。
- ・犯罪が若年化していることもあるので、小・中学生に対する事業内容を考えてほしい。
- ・リーダー育成は県ではなく市町で行ってほしい。
- ・何か手段・手法を利用しないと「いじめ」「自殺」「登校拒否」等は減少しない。積極的に実施すべき。
- ・心の教育推進事業費、スクールカウンセラー活用事業費は問題を近々に改善させる必要と話し合いの中で現状関係者のハードワークから重点的に行うべき。
- ・県の事業を行うに当たって、是非現地・現物で確認し、状況や人の思いを感じ取ってもらいたい。最終的に誰のために何をすることがよいかをもう一度見つめ直してほしい。
- ・心の教育推進事業費は、効果を確実に上げるために増員するなど、何らかの対処が必要。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、効果は上がっていると思うので現状維持の方針。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、内容はおもしろいと思うが、合理化を図るため、また現場を考慮するために再構築すべきである。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、範囲を変えるなど根本的に変える必要があると思う。
- ・私立学校農業体験事業費助成の事業内容について疑問を感じます。縮小すべきです。
- ・心の教育推進事業費は高校生的人格形成上、スクールカウンセラーを増やし、予算拡大し、総合的な実施が必要。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は予算枠はあり、質の向上に力を入れてほしい。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、インプットとアウトプットが不明確。学力向上に直結した事業に注力。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、場当たりの政策は中止すべき。
- ・心の教育推進事業費、スクールカウンセラー活用事業費は、市町との担当の明確化が必要と思われるので、縮小すべき。

- ・「確かな学力」育成推進事業費は、県のエリアで差が出ないように力を入れて実施すべき（東部・中部・西部で差が出ないように）。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、目的を考えると根本から再構築すべき（縮小すべき）。
- ・スクールカウンセラーを単に配置するだけでなく、配置された学校で課題に対してどのような役割で活動するのか、具体的な方針を立てなければならない。現場を知らなすぎる。
- ・全体的に表面的に対処している施策が多く、本当の課題、問題点に対して情報をもっと取って、県として具体化していかなければならない。
- ・心の教育推進事業費は、そもそもスクールカウンセラーと教員との分担が不明確であり、事業の幅を的確な形に見直す必要がある。
- ・スクールカウンセラー活用事業費については、教員、保護者、児童にとって「人づくり」に関して不可欠であるため、重点的に行うべきである。
- ・「確かな学力」育成推進事業費に関しては、リーダーの育成は基本的な指導力の向上と同義であり、既存の研修の枠組みで行うべきであるため縮小。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、現状として募集枠を満たしていないものであり、縮小して差し支えない。
- ・心の教育推進事業費は、規模が小さく効果も限定的なので、内容を充実させるか各校の実情に合わせて助成すべき。再構築していただきたい。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、現場に近い行政が責任を持って実施すべきで、制度仕組みをしっかりと作り込まなければならない。今の中学生は親でさえ手に負えないところがあるから、専門家によるケアは将来にとって大事である。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、教育師範の育成だけでなく、教育現場のレベルアップを取り入れて、できない教職者に対するフォローアップを充実すべき。優秀な人材は自分で育つが、ダメな人はどんどんダメになる。
- ・心の教育推進事業費、スクールカウンセラー活用事業費は、今後とも必要。運用方法に問題あり。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、現在の県教育指導者（先生）の力量と体制（研修）に課題あり。この事業では、成果は期待できない。
- ・心の教育推進事業費は、対応として遅すぎる。心身の健全な育成は、高校より以前にある程度完了してほしい。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、もっと時間数を増やしてほしい。増員してほしいです。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、「リーダーの育成」で特定の人たちだけのスキルアップは望まないです。教員全体の育成があってほしい。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、私立学校の魅力アップに県の税金が使われるのがなぜか分かりません。私学は独力で魅力アップすればいいと思う。農業体験そのものは公立・私立関わらず全学生に体験してほしい。
- ・問題や解決しなければならない案件を無理やりくっつけて事業を立ち上げている感もあるので（特に私立学校農業体験事業費助成）まず大枠から考えていく必要がある。予算有ありきの事業はうまくいかないと考えます。
- ・小中高に関するスクールカウンセラーの必要性はとても強く感じました。県と市町村の関係をもっと密に取るというか、市町村を信頼すべきだと感じました。そのため、現状のままもっと改善できる。
- ・「確かな学力」育成推進事業費、私立学校農業体験事業費助成に関しては現場が本当に必要としていることに対して沿っていないと感じたため、縮小というか見直すべきだと思います。
- ・現場がもっと必要としていることを事業内容を立案する時点で取り入れて、見直してほしいです。
- ・スクールカウンセラーについて高校生のみとし、小中学生については、教員、保護者、また地域の知的高齢者等に協力してもらおう（経費の削減）。
- ・教育については非常に難しい時代にある。子どもたちにとっては無論、教育者（教職員）にとっても。大変過大になっている部分（教育指導本来の業務以外の部分）は、やはり外部からの協力が必要だろうと考える。
- ・いじめについての対策はいろいろあると思うが、特に問題の大きい小中学校におけるスクールカウンセラーの配置は必要なテーマと考えます。（緊急避難的な措置として実施）（いじめの問題は高校よりも小中学校の対策が必要）

- ・教育行政において、公立・私立の窓口の違いで別々の取組があったり、教育委員会においても県と市町で分担があいまいな部分があり、方針の不統一、運用面でロスが発生している。行政組織の見直しが必要だと思います。
- ・心の教育推進事業費については、もっと力を入れてスキルアップしてほしい。無駄なハコモノづくりより、こういう方面に金を使ってほしい。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、国に左右されるので、もっと強い意志で進めてみてはどうか。そのために国によるお金の縛りを避けたいです。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、教師のスキルアップ手法に見直しはどうか。市町がもっと力を入れる方が正論か。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、なんで農業だけなのか。これで耕作放棄地対策になるのか。
- ・いじめに関係する話となり、その対策としてのカウンセラー問題などもあるが、本気でやるならもっと金をかけて見直してしっかりやってほしい。いじめられる人はそれなりの理由もあるし、それを早く発見して死なない程度におさめる手段を考えたい。例えば「あー、自分はいじめられているんだ。それだけ人と違っている。この違いを+思考にしよう。」こうなりませんか。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、事業内容の見直しをして、関連部署との整理をお願いしたい。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、初めから優秀な人材があるわけがないので、そのときに最良の教育を受けるのは必須である。校内でできることはもちろん校内で、学校経営の中で当然行っておくことである。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、事業自体は有効と思いますので、重複部署に一本化して、もう一度目的を明確化して再編してほしい。
- ・心の教育推進事業費、スクールカウンセラー活用事業費について、いじめなど社会的原因矛盾の現象面として、個人的なカウンセリングにほぼ限定しているが、家庭問題、貧困問題などが原因であることが大きい。現実的には教師にもカウンセリングは必要と思うが、本来は教師自身、学校がスキルを身に付ける対策を取るべき。教頭、校長が臨床心理士の資格を取るべきだ。
- ・「確かな学力」育成推進事業費について、リーダーは中から生まれるべきで、自己啓発もできる仕組みを作るべきだ。DVDの活用など、後輩、若手の育成にはもっと現場力と工夫を。
- ・私立学校農業体験事業費助成は、私学の今後の方向性を根本的に捉えなおすべきだ。
- ・スクールカウンセラーの活用が今より発展的になるよう、努力してもらいたい。特に専門職はスキルのみでなく、人間性も含めて起用してもらいたい。
- ・補助金の枠をいかに上手に使うかが大切である。私立学校農業体験事業費助成は、私学の裁量（方針、手段）で一律でなくてもよいし、申請書を提出させて選択をした方がよい。
- ・全体として、大目標、中柱から現実の事業テーマに落とし込むときに、全体が見えないという感想を持った。リーダーは組織で強制的に決めるものではなくて、周りが作るものであって、自己啓発以外にないと思う。例えば、あのような研修をやってA評価が中学校では30%程度、B合わせると9割と言っているが、学校の評価と中学校の先生の評価でいくと、先生の評価Aは少ない。やらないよりはやったほうが良いという程度の研修に税金を使ってほしくない。例えばDVDを作って素晴らしい先生の事業があるならば、それを見せてそれに倣えと生徒との向き合い方、問の取り方が分かると思う。研修会をやらなくてもはるかに低い費用でできると思う。4事業目について、農業だ6次産業だというのが、私学については静岡県が今後どういう考え方を持っているのか。少子化の中で大学や専門学校がどんどんつぶれている中で、私学振興課はどこに根拠を置いて何をしようとしているのか、県民に10年後20年後の展望を示してから説明をしてもらいたかった。
- ・確かな学力について、リーダーを作るというのに「 」をつけたが、人は組織が作るという言葉もある。先生が大変忙しい中で、1人で自己啓発に外に出かけていくのはなかなか大変である。組織がシステムの中でチャンスを与えることが1点ある。もう1点は、今一番いい方法があるならば、それを体験して見に行き、地元に戻って教えるというのは、底上げに一番有効な方法だと思う。生徒と向き合うときに生徒から見れば先生は一人しかいないが、先生から見れば生徒はたくさんいる。その瞬間の時間を削ってそれはおかしいというよりは、先生全体の底上げを狙う目的があるものに投資をして広げていくほうが、将来的な効果としては上がるのではないかと思う。

- ・初めて事業レビューに参加して、スクールカウンセラーのことを普段考えることもなかった。静岡県の国語力が低いことも、ニュースで聞いて初めて知ったというのが正直な感想。今回、事業レビューに参加することになって、いただいた冊子や議論を聴いて初めて学校でスクールカウンセラーがこんなに必要なこと、同じ静岡県なのに、西部・中部・東部で先生や教育に少しずつ差があることを知ってショックを受けた部分も大きかった。県民なのに知らなかったという部分がすごく多かったのでそれに気づいたことが良かった。私立学校農業体験も、農業を経験することはいいことだと最初は思っていたが、話を聞くと、農業だけでなく、生徒の中には林業、漁業、お花などいろいろやりたいと思う子がいるかもしれないと思うので、農業と決めつけてしまうとそれだけになるので、せつかく助成金があるのであれば、子供達がいろいろなことを経験できるような仕組みになればよいと思った。

## (2) その他の意見

- ・委員の質問に対する県側の説明・回答に食い違いや不十分な点が見られ、それが委員の評価につながっているように思える。県側はもっと明確に説明できるようにした方がよい。
- ・4つの小柱に対して、正直、行政と県民の温度差がありすぎのよう感じた。今回このような結果になったが、参考にされても改善されるのか疑問です。
- ・スクールカウンセラーはいじめ問題、不登校等で学校が悩んでいる。是非やってほしい。先生にもカウンセラーが必要。
- ・アグリチャレンジは公立で参加者が少ない。私立でも効果がありあるとは思わない。
- ・土民は市民でよいのではないか。富士を意識しすぎではないか。いかにも県職が考えそうな文字か。
- ・重点、縮小事業両方ともにやり方に問題がある。
- ・事業内容も、そのバックグラウンドもちゃんと理解していない者が判定や正しい意見を述べることは難しい。
- ・不登校やいじめ等の児童が今後増えると思うので、スクールカウンセラーや教師が協力、話し合っただけでいい。
- ・スクールカウンセラー活用事業費は、生徒に目が向いていない。先生の存在感が感じられない。カウンセラーの割付など不安を感じる。
- ・「確かな学力」育成推進事業費は、学習・研究のみで指導力ほか本当に向上するのでしょうか。
- ・仕事のPDCAサイクルができていない。縦割行政の悪い点が目立ちました。
- ・「確かな学力」育成推進事業、私立学校農業体験事業費助成について、成果が分かりにくい。県の事業でなければならぬ必要性が感じられない。
- ・事業を決めるときは、外の有識者も入れて考えたらどうか？
- ・課とテリトリーがあるのかもしれないが、その枠を超えた事業の考え方があってもよいのではないかと思う。
- ・私立学校農業体験事業費助成について、丸投げは行政施策にとっていかなものか？
- ・何のために行政施策が必要かを考える前に、テーマの選定など、行政の基本的な進め方について、事業の企画手法、利益計画など手法の確立（コンサルティングなどによる）が必要ではないか？
- ・私立学校農業体験事業費助成は、なぜ農業なのか不明。実施率33%と低い 効果がないのでは？
- ・各事業とも、将来（中期）に対する県の具体的目標が見えない。その目標達成のための問題点・課題も明確にすべきだと思う。
- ・それぞれの取組はどれも内容的にはよいと思うが、それを展開する方法がどれも中途半端だったり、重複する機関との調整が必要だと思うので、でも でもない。
- ・結果の検証（レビュー）も必要だが、施策立案段階での県民参画が必須。
- ・施策立案段階での外部（施策全体を俯瞰できる人）からの意見徴収が必要。
- ・内容・成果に問題がある事業が多かった気がします。
- ・全体として、日本の教育組織や内容が知育偏重を脱し切れていない。創造性ある、生活力ある若者をどう育てるのか？事業レビューが限定された中での議論で済ませてはいけないのではないか。

- ・よくすることとクレームをつけることは別ということをつかんだ人が県民評価者として選ばれるとうれしい。分かり合う場所になってほしいと思った。その中で役割を分けるところと効率をよくするための努力が必要なところをはっきりさせることができるとうい事業レビューになると思う。
- ・スクールカウンセラー活用事業費、私立学校農業体験事業費助成とも、予算化する前にすり合わせをしていけば...と思う。
- ・教育の評価は10年、20年、30年経って見ないと分からない(今の子どもがどんな大人になるか)。しかし、年々の事業は止めておれないわけで、組織や内容、目的、人(教師)、物、金などの県税の使い方と評価については、内部評価の捉え方は大いに疑問。事業スタートの前に、外部や第三者に聴く仕組みを作りたい。
- ・「生きるため」というより、よりよく生きるために何が基本となるのか。根本的な小柱が曖昧に立ててあるのが気になった。
- ・リーダーに養成するとは?もう一度考えてみてください。
- ・大柱に対しての中柱、小柱が十分に企画されたとは思えない。つまり、小柱ができたならOKかというところと全くそうでないところもあり、分析の方法が違うのではないか!と思った。